

5月18日中間考査が終わると一斉に部活動が始まりました。とても天気は良く、汗ばむくらいでした。校長室から前庭を見ていると



浴衣姿の生徒が現れ、野点傘(のだてがさ)を立ててお茶を入れようとしていたので声をかけると文化発表会用のビデオ撮影をするとのことでした。自前の浴衣に身を包み、和菓子も用意して本格的な撮影でした。なかなか外でお茶を点てることができないのですが、本来こうあるべきなのだというのを感じた一瞬でした。

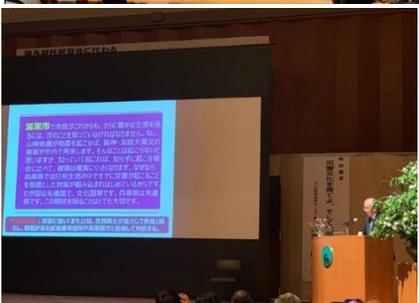
文化発表会での映像に期待です。

そして、その横では荻野校務員さんが枝の剪定をされていました。入学式では桜一色だった前庭も、桜が終わるとつつじが咲き、今はつつじも校舎側が残ってはいるものの、青々とした緑になって初夏を思わせるようになってきました。大きな脚立を持ち運びしながら綺麗に剪定されていました。いつも校内の環境整備をしていただいているだけでなく、破損箇所や修繕箇所を丁寧に修復していただいています。本当にありがとうございます。



5月22日は本校同窓会長である藤本百男 県会議員の県会議長就任祝賀会に代わる県政報告会・特別講演会に行かせていただきました。本来ならば昨年度行う予定がまん延防止等重点措置、緊急事態宣言等の影響もあり、この日になったということでした。齋藤県知事、末松文部科学大臣、藤井比早之衆議院議員

もお祝いに駆けつけられ祝辞を述べられていました。藤本議員(同窓会長)の報告の中には、副知事の紹介もあり、4月に就任された副知事が加東市にルーツを持っておられる紹介から始まり、新型コロナ対策、新知事誕生、ウクライナ支援にかかる県議会の体制など激動の議会運営をされたことを話されました。話の抑揚の付け方や話題の取り上げ方など話しぶりにはとても勉強になることが多く、挨拶をすることが多い校長の立場で何を話すべきか大変勉強になりました。また、4月に就任され藤本議員が紹介された服部洋平副知事ですが、私の高校時代



の同級生で同じクラスであったことから休憩時間に挨拶に伺いました。私の社高校勤務もご存じのようで、短い時間でしたが、同級生の頑張りを肌で感じる事ができ、良い時間を過ごすことができました。休憩後は、特別講演会ということで、「人と防災未来センター長」河田恵昭先生が「災害文化を育てよ そして災害に打ち克て！」というテーマでご自身の経験に基づいた研究や取組、成果から今後に向けた防災、減災、縮災の考え方について貴重な話をされました。例えば加東市でも山崎断層地震が起こった際の被害について研究をされていましたが、死者や建物損壊等多くの被害が出るということでした。そして、災害が起こることを前提で備えをしておくことの大切さを話され、被害を小さく、復旧を早くするための取組が必要であると言われました。幸い兵庫県は阪神淡路大震災で得た経験から先進県とも言われており、災害に強い町の条件として住民同士が協力して仲良く暮らし問題が生じれば県庁や市役所と協働して対処できる要素を持っているということでした。また河田センター長は、県の支援のもと防災センターができたことで(本来は国が全面的に作るものとの考えがあるが)、文化的な側面を持つことができたとも話されていました。加東市は比較的安全だとの認識は根強いですが、危機意識と共に災害はあるものという意識を持つことの大切さを改めて知るようになりました。

今週は生徒会選挙もあります。23日朝、立候補者たちが校門前に並びました。社高校をみんなで考えるきっかけにいきましょう。よろしくお祈りします。

